

## 安全データシート

整理番号：2020060102

作成：2020/06/01

改訂：

製品名：モリグリーンPRO SP/GF-6 OW-20

### 1. 化学品及び会社情報

製品名：モリグリーンPRO SP/GF-6 OW-20

用途：4サイクルガソリンエンジン用

会社名：株式会社CAPスタイル

住所：東京都大田区大森北 1-11-5 共和七番館 6F

緊急連絡電話番号：03-3298-7100

### 2. 危険有害性の要約

GHS 分類：GHS 分類基準に該当しない。

GHS ラベル要素：絵表示なし。

危険有害性情報：GHS 分類基準に該当しない。

その他注意事項：GHS 分類による注意書きに記載がない場合でも、以降の章に記載された情報を参考に、安全対策/応急措置/保管/廃棄に関し十分な配慮を行うこと。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分及び濃度又は濃度範囲：石油系炭化水素（鉱油） 75 質量%以上 95 質量%未満

潤滑油添加剤 5 質量%以上 25 質量%未満

化学特性（化学式）：特定できない。

構成物質はすべて既存化学物質であるが、番号は企業秘密であり非公開。

危険有害成分情報：

化学物質管理促進法 非該当

労働安全衛生法 鉱油(第 57 条の 2 通知対象物質 政令番号 第 168 号)

毒物劇物取締法 非該当

### 4. 応急措置

吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移動させ、体を毛布等で被い、保温して安静を保つ。必要に応じて医師の手当てを受ける

皮膚に付着した場合：多量の水または石鹸水で付着した部分を洗う。加熱状態の製品が触れた場合には洗った後に火傷に対する措置を行わなければならない。また水泡、痛みなどの症状がでた場合には必要に応じて医師の診断を受ける。

- 眼に入った場合： 清浄な水で十分に洗浄した後、ただちに医師の手当てを受ける。洗眼の際には、瞼を指で開いてすみずみまで水がいきわたるようにする。コンタクトレンズを使用している場合には、固着していないかぎり、取り外して洗浄する。
- 飲み込んだ場合： 無理に吐かせないで、速やかに医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合には、水で十分洗う。
- 最も重要な徴候症状： 飲み込むと、下痢、嘔吐する可能性がある。目に入ると炎症を起こす可能性がある。皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。ミストを吸入すると気分が悪くなる可能性がある。
- 応急措置をする者の保護： 現在のところ有用な情報なし。
- 医師に対する特別な注意事項： 現在のところ有用な情報なし。

---

## 5. 火災時の措置

- 消火剤： 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- 使ってはならない消火剤： 棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。
- 特有の消火方法： 火元への燃焼源を断つ。周囲の設備等に散水して冷却する。火災発生場所周辺への関係者以外の立入りを禁止する。大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。注水は火災を拡大して危険な場合がある。
- 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用する。 燃焼または高温により有毒なガス（一酸化炭素など）が発生する可能性があるため、呼吸用保護具を着用する。

---

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置：  
作業の際には、必ず保護具を着用する。大量漏洩の場合、漏洩場所の周辺にロープを張るなどをして関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項：海上・河川・下水道等に排出されないよう注意する。薬剤を用いて処理する場合には国土交通省令・環境省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：  
周辺の着火源を速やかに取り除く。少量の場合は、土砂、ウエス等に吸収させ回収し、その後を完全にウエス等で拭き取る。大量に漏洩した場合には、土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器等に回収する。海上の場合、オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸収マットなどで吸い取る。
- 二次災害の防止策： 漏洩時は事故の拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。また環境規制に従って汚染された物体および場所を十分に洗浄する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策：指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。炎、火花は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。危険物が残存している機械設備などを修理、または加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。容器から取り出す時はポンプなどを使用すること。細管を用いて口で吸い上げてはならない。飲まない。皮膚に触れたり、目に入る可能性がある場合には、保護具を着用する。ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。容器は必ず密閉する。

局所排気・全体換気：現在のところ有用な情報なし。

注意事項：石油製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。そのため換気および火気などへの注意が必要である。

安全取扱注意事項：常温・常圧で取り扱うものとし、その際、水分、きょう雑物の混入に注意する。その際、ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

### 保管

安全な保管条件：直射日光を避け換気の良い場所に保管する。ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管する。危険物表示をして保管する。熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。

安全な容器包装材料：空容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。容器は、溶接、加熱、穴あけまたは切断をしない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：ミストが発生する場合は発生源の密閉化、または排気装置を設ける。取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄の為の設備を設置する。

管理濃度管理濃度：規定なし（作業環境評価基準（平成 21 年度厚生労働省告示第 194/195 号））

許容濃度許容濃度：日本産業衛生学会（2010 年度版）

・時間荷重平均 TWA 3mg/m<sup>3</sup> (鉱油ミスト)

ACGIH（2010 年度版）

・時間荷重平均 TWA 5mg/m<sup>3</sup> (鉱油ミスト)

### 保護具

呼吸器の保護具：ミスト・蒸気が発生する場合、必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する。

手の保護具：長期間または繰り返し接触する場合には耐油性のものを着用する。

目の保護具：飛沫が飛ぶ場合にはゴーグル型眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具：長期間にわたり取扱う場合または濡れる場合には耐油性の長袖作業着等を着用する。

適切な衛生対策：濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 製品

物理的状態：	液体
形状：	液体
色：	淡褐色
臭い：	わずかな臭い
融点・凝固点：	流動点 -42.5 °C
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	200 °C 以上(クリーブランド開放式)
自然発火温度：	データなし
燃焼又は爆発範囲：	データなし
蒸気圧・蒸気密度：	データなし
密度：	0.847 g/cm <sup>3</sup> (15°C)
動粘度：	49.1 mm <sup>2</sup> /s (40°C)
溶解度：	水：不溶
n-オクタノール／水分配係数：	データなし
分解温度：	データなし

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性：	常温・常圧で安定。
危険有害反応可能性：	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件：	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
混触危険物質：	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質。
危険有害な分解生成物：	燃焼の際には一酸化炭素等が発生する可能性がある。

## 11. 有害性情報

### 製品

急性毒性（経口）：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
急性毒性（経皮）：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
急性毒性（吸入）：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
呼吸器感作性：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
皮膚感作性：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
生殖細胞変異原性：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
発がん性：	本製品に使用の基油は高度精製基油であり、IARC では高度精製油はグループ 3（ヒトに対して発がん性について分類できない）に分類され、ACGIH でもほぼ同様の分類がなされている。EU 基準においても、発がん性物質としての分類は適用される必要はないとされている。これらの知見により区分外とした。

## CAP スタイル株式会社

警告：使用したエンジンオイルに長期間触れた場合、動物実験では皮膚がんになる可能性があることが報告されています。取扱う際は長期間皮膚に触れないようにしてください。

生殖毒性：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
特定標的臓器毒性、単回ばく露：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
特定標的臓器毒性、反復ばく露：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。
吸引力呼吸器有害性：	利用可能な情報に基づく限り分類できない。

## 1.2. 環境影響情報

生態毒性一般：	水には難溶解。水面に浮遊して水生生物への汚損を生じる。
急逝毒性・慢性毒性：	有用な情報なし。
残留性・分解性：	有用な情報なし。
生体蓄積性：	有用な情報なし。
土壤中の移動性：	有用な情報なし。
オゾン層への有害性：	該当しない。
他の有害影響：	追加情報なし。

## 1.3. 廃棄上の注意

事業者は産業廃棄物として自ら処理するか、または都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

投棄禁止：埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。

燃焼する場合は、安全な場所で、かつ燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

使用済み容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。使用済み空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理する。

## 1.4. 輸送上の注意

国連勧告・国連分類：なし

国内規制：下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上輸送	消防法	危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ
海上輸送	船舶安全法	非危険物（個別運送及びバラ積み運送に措いて）
航空輸送	航空法	非危険物

輸送の特定の

安全対策及び条件：引火性液体なので「火気厳禁」。容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。指定数量以上の危険物を車両で運搬する場合は、総務省令で定めるところにより、当該車両に標識を掲げる。またこの場合、当該危険物に該当する消火設備を備える。運搬時の積み重ね高さは3m以下とする。第1類及び第6類の危険物及び高压ガスを混載しない。その他関係法令の定めるところに従う。

## 15. 適用法令

- 消防法： 危険物・第4類引火性液体・第4石油類
- 化学物質排出把握管理促進法：非該当
- 労働安全衛生法： 名称等を表示すべき有害物(石油系炭化水素（鉱油）)  
名称等を通知すべき有害物(石油系炭化水素（鉱油）)
- 毒物及び劇物取締法：非該当
- 水質汚濁防止法： 油分排出規制（5mg/L 許容濃度）
- 下水道法： 鉱油類排出規制（5mg/L 許容濃度）
- 海洋汚染防止法： 油分排出規制（原則禁止）
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律：産業廃棄物（拡散、流出の禁止）

## 16. その他の情報

- 参考文献等：・許容濃度の勧告（2010） 日本産業衛生学会 産業衛生学会誌
- ・米国産業衛生専門家会議(ACGIH) “TLVs and BELs 2010”（2010）
  - ・Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH (2010)
  - ・ECHA (European Chemicals Agency), website "ECHA CHEM", Information on
  - ・IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans (2006)
  - ・EC 理事会指令「67/548/EEC」の付属書 I 「危険な物質リスト」
  - ・安全衛生情報センター 「GHS 対応モデルラベル・モデル MSDS 情報」
  - ・独立行政法人 製品評価技術基盤機構(nite) 「GHS 関連情報」
  - ・日本規格協会(JIS) JIS Z 7253 : 2012 「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)」

免責文：安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱事業者提供されるものです。取扱事業者は、自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で活用をお願いします。

本データシートは、安全の保証書ではありません。記載されている情報は記載日時点での情報を基に作成したものであり、各種法令改正や製品情報の改訂により今後も内容が変更されることがありますので、常に最新の安全データシートを使用するようにお願いします。